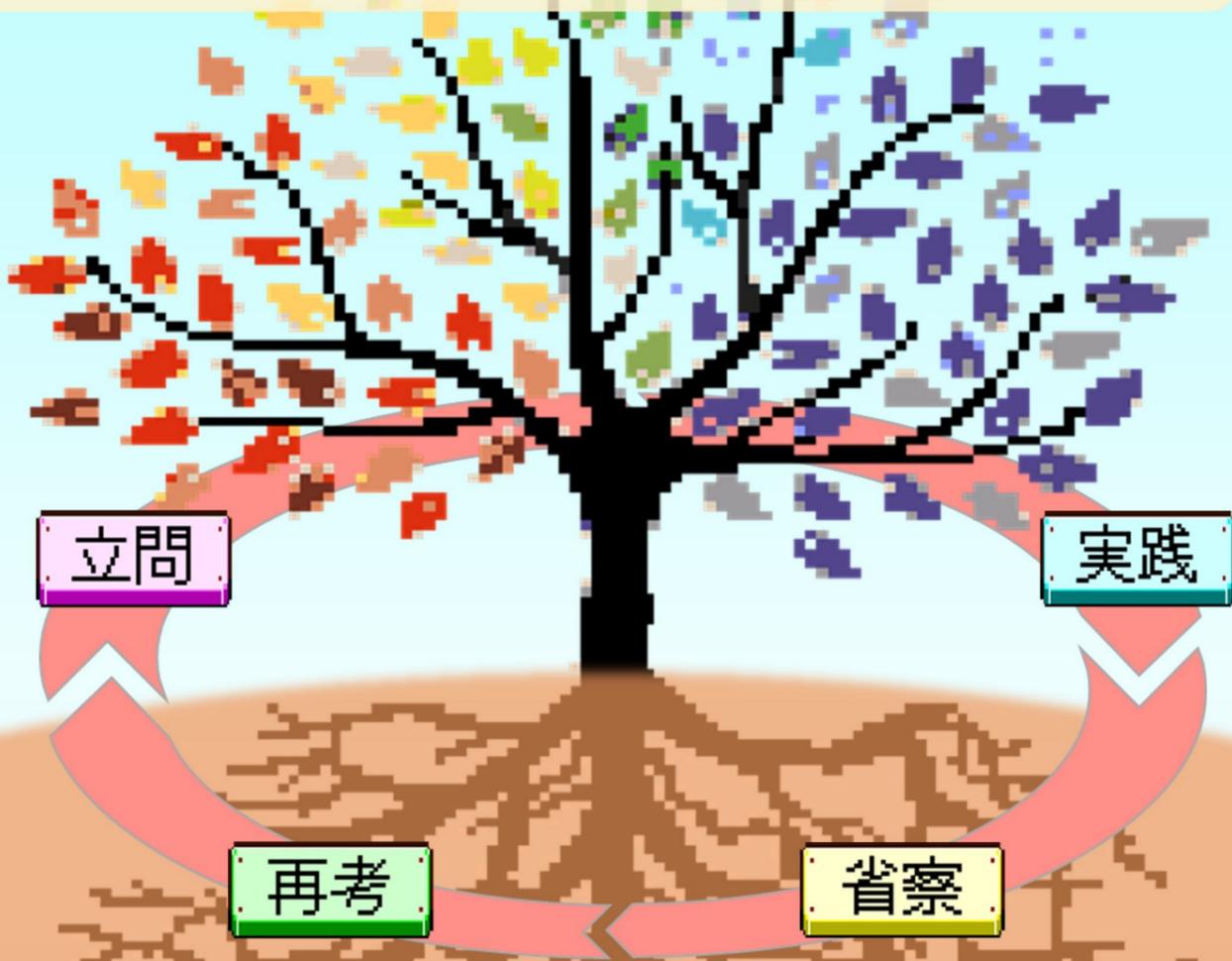


令和6年度校内研究活性化プロジェクト研究

「新たな教師の学びの姿」 の実現に向かう 校内研究Ⅱ



校内研究で教員一人一人の探究的な学びを支える

はい いいえ

ツール 協議方法 検証方法

授業改善ロードマップ
「子どもの学びの姿」見取りシート

教員の探究的な学びを「立問」「実践」「省察」「再考」の四つのプロセスで捉えて校内研究を進めてきたよ。校内研究によって教員一人一人の探究的な学びを支えることで「新たな教師の学びの姿」の実現を目指したよ。



「新たな教師の学

変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ
自律的に学ぶという

主体的な姿勢

求められる知識技能が変わっていくことを
意識した

継続的な学び

教員一人一人の探究的な

主体的

Start!

立問



研究主題の達成に
向けた問いの設定

目指す児童生徒の
学びの姿の想定



グループでの協議を生かして、自分
はどのような問いを立てようかな？

個別最適な学び

授業改善ロードマップ

授業に関する自分の...

氏名

氏名

研究主題

目指す子どもの姿

探究的な学びの過程を
可視化するためのツール

立問

児童の
学び

新たな問いの設定



次は子どものつばやきを拾って、
また子どもに問い返していこう！

再考

問いを再考

再考



継続的な学び

教員一
人の探究的
支える二つ
の活用方法

「『子どもの学びの姿』見取りシート」の活用方法

「『子どもの学びの姿』見取りシート」とは…

授業を参観する際に、授業者の問いを共有し、児童生徒の学びの姿と指導の手立ての側面から気づきを記録して、授業実践後の研究会等で活用するためのツールです。

記入例

「子どもの学びの姿」見取りシート

氏名(滋賀 花子)

校内研究主題

探究心をもって主体的に学び、自分の考えをいきいきと表現する子どもの育成
～対話を生かした協働的な学びを通して～

目指す子どもの姿

自ら考え、表現できる子 粘り強く、頑張る子 優しく、助け合える子

〈授業参観と研究会について〉

- ・子どもの学びの姿を中心に授業を参観し、研究会で協議を行います。
→参観の対象とする子どもを定め、授業者の指導の手立てに対する学びの姿を具体的に記録しましょう。
- 協議の際に子どもの学びの姿とその要因を語れるように準備をしましょう。

授業者の問い
(参観の視点)

- ①ペア学習を取り入れていけば、相手意識や目的意識が生まれ、調べたことや自分の考えを主体的に伝えることができるのではないだろうか。
- ②ICT機器を活用すれば、調べられることや表現できることの幅が広がり、調べたことや自分の考えを、自信をもって伝えることができるのではないだろうか。

授業者の問いに対する、本時における目指す子どもの姿(ルーブリック)

A	B	C
調べたことを基にして、自分の考えの表現の仕方を自分なりに工夫し、自信をもって伝えている。	調べたことや自分の考えを、自信をもって伝えている。	調べたことを伝えている。

参観しての気づき

場面	子どもの学びの様子	授業者の指導の手立て等
《活動内容》 学習課題について、前時までICT機器を活用して調べ、まとめたことを伝え合う		
まとめたことを発表する準備の場面	<ul style="list-style-type: none"> ○伝えたいことを、要点を絞って整理している。 ○ICT機器を使って、伝えたいことを、図表や言葉で表現する練習を繰り返し行っている。 ○「相手にしっかりと伝えたい」という意欲的な姿勢が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●発表のための準備(予行練習)の時間を設ける。 ・資料の提示の仕方や話し方等、具体的な準備の方法を共有したり、提示したりする。
まとめたことを発表する場面	<ul style="list-style-type: none"> ○小集団での活動だったため、適度にリラックスした状態を保ちながら、落ち着いて発表している。 ○事前の準備や練習をしたことで、自信をもって伝えたいことを伝えている。 ▲調べた内容をそのまま伝えることだけに留まり、伝えたいことを自分なりの言葉で表現していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ペアを組んで、相互に発表する時間を設ける。 ※ペアを変更して2回行う ・学びを深めるために、1回目の発表を終えた後、よく伝わったことや伝わりにくかったことなどを共有する機会を設ける。

児童生徒の学びの姿の詳細な様子や参観して気づいたことをここに記入していくんだよ。

授業者の問い(参観の視点)

授業者が、校内研究の主題の達成に向けて立てた問いを記入し、参観者と共有します。問いを記入する際には、期待する児童生徒の学びの姿と、具体的な手立てを踏まえて記述するようにします。授業者の問いは参観者にとっての参観の視点となります。



授業者の問いに対する、本時における目指す子どもの姿(ルーブリック)

授業者が、立てた問いに対して、本時において、どのような児童生徒の姿を目指すのかを記述するようにします。ルーブリックとして示すことで、参観者が児童生徒の学びの姿をイメージすることができ、授業者の指導の手立ての有効性を検証する際の判断材料となります。

参観しての気づき

参観者は、授業者の指導の手立て等によって生じた児童生徒の学びの様子のみを記録します。



児童生徒の学びの姿を見取るときは何を見取ればいいのか？

授業における児童生徒の「発言」「行動」「表情」などを詳細に見取るといいね。



詳細に見取るのってなんだか難しい気がするな…。



参観者が児童生徒の学びの姿を詳細に見取ることができるように、事前の準備をしておくといいね。参観者が**児童生徒の学びの姿を見取ること**に集中できるように、学びの姿を見取る児童生徒を数名抽出したり、「場面」や「授業者の指導の手立て」を周知したうえで予め授業者等が記入しておき、参観者は**「子どもの学びの様子」**を記入するようしておくことが考えられるよ。

「学びの姿」の実現

新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した

個別最適な学び

他者との対話や振り返りの機会を確保した

協働的な学び

文部科学省中央教育審議会「『令和の日本型教育』を創る教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～(答申) 令和4年

学びを支える校内研究

な姿勢

手立ての検討

実践

授業実践

手立ての有効性を児童生徒の学びの姿から見取るためのツール

児童生徒の学びの姿の見取りを共有

成果と課題の考察

省察

協働的な学び

教師

生徒の姿

観察

一人一人の学びをのツールはこちら!

校内研究活性化へのQ&A 教えて！センター

教員一人一人が校内研究に対して、主体的に取り組めるようにするには？

①教員一人一人が校内研究の主題や目指す子どもの姿への理解を深め、立問しよう

教員一人一人が校内研究を自分事として捉えることができるように、校内研究の主題や目指す子どもの姿の達成に向けた問いを立ててみよう。そのときに「授業改善ロードマップ」を活用して探究的な学びを可視化できると学びのつながりを意識できるよ。問いを立てるきっかけとして外部講師を招聘し、校内研究主題に関する講義を設定するなどして、客観的な意見を得たり新たな視点を見いだしたりすることもいいと思うよ。

②教員一人一人の実践を共有しよう

教員一人一人の実践を共有することは、教員の学び意欲の向上につながるよ。教員同士で実践を参観したり、通信などに実践を掲載したりする方法が考えられるね。授業から学んだことをメッセージカードなどで授業者に伝えられるようにすることも、教員の学び意欲の向上につながるよ。

研究会において協議を活性化させるには？

①話しやすい場を設定しよう

座席配置を工夫したり、飲み物を準備したりして、気軽に話せるようなリラックスした雰囲気の中で協議できるようにしよう。

②協議を進めるための役割を設けよう

各教員の考えを引き出すファシリテーター役、意見を整理し可視化する記録役など、協議会に合わせて役割を設けるといいね。

③児童生徒の学びの姿を根拠に協議することを心掛けよう

児童生徒の学びの姿に着目して児童生徒を主語にして話し合うことで、協議の視点が明確になるね。教員一人一人の経験や授業に対する考え方を基にして児童生徒の学びの姿を見取ることによって多様な意見が生まれて、協議が活性化していくよ。

授業を参観するときの参観の方法や視点をどのように決めるといいの？

①学びの姿を見取る児童生徒を抽出しよう

個々の児童生徒の学びの姿を見取ることで、授業者の指導の手立ての有効性を検証できるよ。事前に見取る児童生徒を決めて、参観者で分担しておくことも方法の一つだね。

②授業者の問いやルーブリックに基づいて参観の視点を設定しよう

授業者の指導の手立てによる、児童生徒の学びの姿の様子を具体的に想定しておく、それが参観の視点となって実際の児童生徒の学びの様子を参観することができるね。「『子どもの学びの姿』見取りシート」に記入する欄があるよ。ぜひ、活用してね。

校内研究の成果や今後の課題を整理するには、どのような考え方や方法で行うといいの？

①教員一人一人の探究的な学びによる成果と今後の課題を共有しよう

授業者の指導の手立てに対する児童生徒の学びの姿に着目して、具体的に記録をしておこう。これを根拠として、教員一人一人が探究的な学びによる成果と課題を整理し、校内研究の取組を通して共有しよう。そして、共有したことを基に校内研究としての成果と今後の課題を校内研究主任が中心となって整理しよう。

②研究の成果と今後の課題を整理するための資料を明確にしよう

例えば、次のような資料を組み合わせることが考えられるね。
 [質的な資料の例] ・授業参観の記録 ・児童生徒との面談記録 ・振り返りの記述 等
 [量的な資料の例] ・アンケート調査 ・単元末テストや定期テスト 等

③中間評価を行うなど、定期的に取り組むを振り返ろう

学期末や年度の中頃などの節目に、校内研究の取組や児童生徒の学びの姿を可視化することで、校内研究の方向性が明確になって、成果と課題が捉えやすくなるね。「校内研究省察ポスター」を作るのがおすすめだよ。

研究論文やプロジェクト研究通信、各種シート等のダウンロードはこちら

滋賀県総合教育センター 令和6年度研究成果情報

検索

「授業改善ロードマップ」の活用方法



各回の校内研究会や各学期末に、このシートを記入する時間を設定するのがおすすめです。

記入例

授業改善ロードマップ

授業に関する自分の…

強み 単元のゴールをしっかりと把握してから授業に臨むことができる。児童の思いを大切にできる。

課題 児童の「学びの自覚」を「学びの調整」に生かしきれていない。

研究主題 主体的に考え、判断し学習へ向かう子どもの育成
～どの子も見通しをもち、学びを自覚する時間や自ら学習を調整する場を大切に授業づくり～

目指す子どもの姿 自分の学びに見通しをもち、学びの自覚をもとに自律的に学び続ける姿

立問 児童が単元のゴールへの見通しをもてるように学習を展開していけば、振り返りを通して「学びの自覚」を促すことができるだろう。

省察 《成果》 振り返りの視点を示すことは学びの自覚を促すうえで効果的であることが分かった。
《課題》 「学びの自覚」を学習の見通しとつなげて児童一人一人の「学びの調整」を促したい。

実践 《手立て》 1学期の国語科の実践において、児童一人一人に単元のゴールを示した学習計画表を配付し共に単元計画を立てる。
《児童の学びの姿》 学習計画に沿って振り返りができるようにしたので、次の学習の見通しももつことができたようだ。

実践 《手立て》 2学期の国語科の実践において毎回の授業で振り返りの視点を児童と対話しながら考え、示す。
《児童の学びの姿》 これまで短い感想しか書くことができなかった児童が、学びを自覚したことについて振り返ることができたようだ。

省察 《成果》 児童は、単元を通して学習の見通しをもつことができるようになった。
《課題》 児童がもっと自分なりに見通しをもてるように工夫していく必要がある。そのためにも振り返りの際に「学びの自覚」を促す視点を示していくことが必要なのではないか。

立問 児童が自分の成長を感じたり、できたという実感をもてたりするように振り返りの視点を示せば「学びの自覚」を促すことができるだろう。

再考

再考

「授業改善ロードマップ」とは…

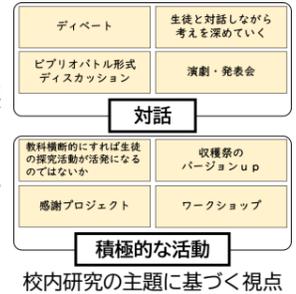
教員一人一人が、探究的な学びの四つのプロセスに沿って学びを可視化することで、PDCAサイクルを回すことができるようにするためのツールです。

立問

自分の**強み**や**課題**を基にして、校内研究の主題の達成に向けた問いを立てて記入しましょう。

立問を支える校内研究の取組の例

- 教員が自校の現状や課題を把握したり、校内研究の主題への理解を深めたりするための協議会を設定する。
- 校内研究の主題に基づく視点をいくつか示し、その視点と教員一人一人の「やってみたいこと」を基に立問することができるように支援する。



実践

自分が立てた問いに基づく具体的な手立てと、授業における児童生徒の学びの姿を記入しましょう。

実践を支える校内研究の取組の例

- 教員一人一人の問いを整理して研究グループを組織する。
- 「『子どもの学びの姿』見取りシート」を活用しながら相互に授業を参観する機会を設定する。
- 授業者の問いに基づく指導の手立ての有効性を検証するために参観者をグループに分け、学びの姿を見取る児童生徒を決める。



児童の学びの姿を見取り、記録している様子

省察

見取った児童生徒の学びの姿を基に手立ての有効性を検証し、成果と課題を考察して記入しましょう。

省察を支える校内研究の取組の例

- 教員一人一人が安心して考えを発言できる雰囲気と機会を保障した研究協議の場づくりを行う。
- 「『子どもの学びの姿』見取りシート」を活用して見取ったことを共有し、多角的に授業実践を振り返る。
- 児童生徒に授業に関するアンケートを実施して考察する。



アンケート調査の結果を共有し考察する様子

再考

省察した授業実践の成果と課題を基に、対話を重ねて問いを再考し、新たな問いにつなげましょう。

再考を支える校内研究の取組の例

- 研究会等で学んだことが教員一人一人の新たな問いにつながるように学びを振り返る機会を確保する。
- 独りよがりの学びに陥らないように、「授業改善ロードマップ」を互いにいつでも見られるようにするなど、教員同士で各自の新たな問いを共有しながら学びを進める。